



### \*\*\*\*\* 新任のご挨拶 \*\*\*\*\*



このたび、4月1日付けの人事異動で福井県水産試験場長を拝命しました伊藤です。3月までは独立行政法人水産総合研究センター(前水産庁水産研究所)の養殖研究所に所属しており、地球温暖化の養殖魚に対する影響評価や沿岸域の物質循環、ウナギ仔魚の飼育環境管理などの研究を行っていました。

簡単に自己紹介をして、私の人となりを知っていただきたいと思います。生まれは海無し県である長野県の諏訪市で、これまでに北海道の札幌、函館、再び長野県の上田市、三重県と渡

り歩きました。福井県で生活するのは今回が初めてです。海を知らない者が何故水産の世界に入ったのかとよく聞かれますが、海が無かったからこそ余計に海にあこがれを持ったのでしょうか。学生時代は、北海道大学水産学部の淡水増殖学講座という所で、海とはあまり関係のない内水面の魚類増殖の研究を行っていました。30才までその研究室に居座った後、昭和61年に水産庁の東海区水産研究所の陸水部(現在、水産総合研究センター中央水産研究所の内水面研究部)に入りました。学生時代に内水面をフィールドにしていたとはいえ、またもや海とは縁のない研究生活が15年間続きました。そこでは、内水面の物理・化学的な環境変化が魚の繁殖(魚が生き残っていく)にどのような影響をおよぼすかという研究を行っていました。テーマは、河川改修の影響評価、酸性雨や環境ホルモンなど地球環境問題の影響評価です。この時に、魚のストレス応答と免疫機能などを研究していた関係で、4年前に前職場である養殖研究所に引っ張られました。ようやく念願の海を臨む研究所に来ることができた訳ですが、対象とする魚がコイやアユからマダイやヒラメに変わっただけで、研究内容にはあまり変化はありませんでした。でも、毎日海を眺めていられることに満足していました。そして、ここ水産試験場の場長室からも目の前に海を臨むことができ、いい職場に来ることができたなどと思っています。学生時代にはアイスホッケー部に所属しており、趣味でバドミントン、スキーなどもやっていて、研究一辺倒という訳ではなく、体力にもそこそこ自信があります。

このように、これまでの私の経歴には行政畑の仕事は全く無く、研究畑オンリーでやってきました。そうした中でも水産に関する知識は主に内水面の増養殖や環境の分野に偏っています。しかし、今回与えられた職場を人生の中での絶好のチャンスと捉え、水試職員の協力を得ながら、これまで培った知識と体力をフル活用して、福井県の水産業振興のために精一杯頑張ります。皆様のご指導、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

(伊藤 文成)

## 〔海の状況（3/21～4/20）〕

神子表面水温……期間全体をとおして、平年並み（平年より±0.5℃）からかなり高め（平年より1～1.5℃程度高め）で推移した（図1）。

米ノ表面水温……期間全体をとおして、平年並みで推移した（図2）。

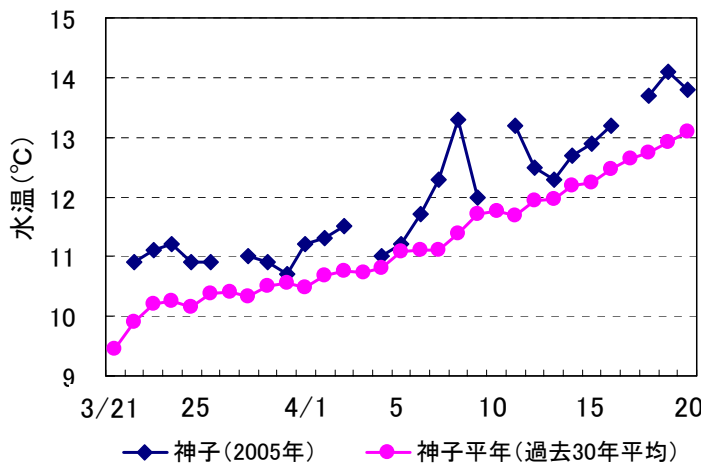


図1 三方町神子地先における表面水温の推移

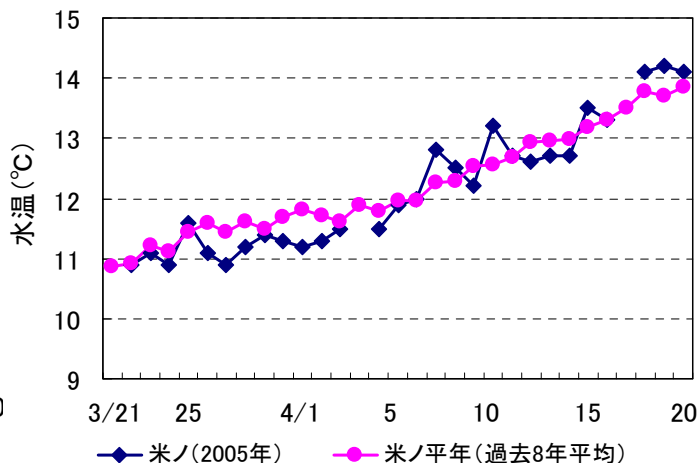


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……若狭湾沿岸域には11～12℃台の水域が広がっていた。

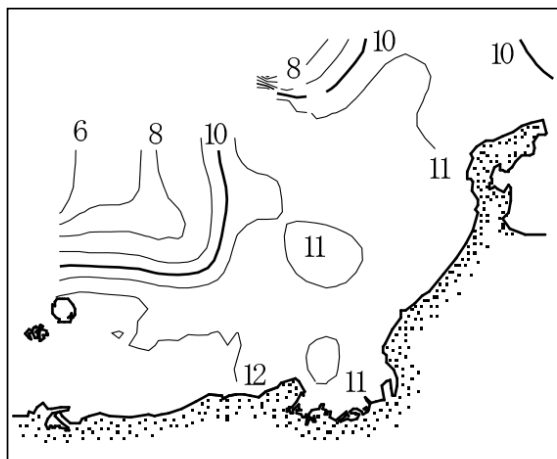


図3 2005年4月上旬の100m深水温

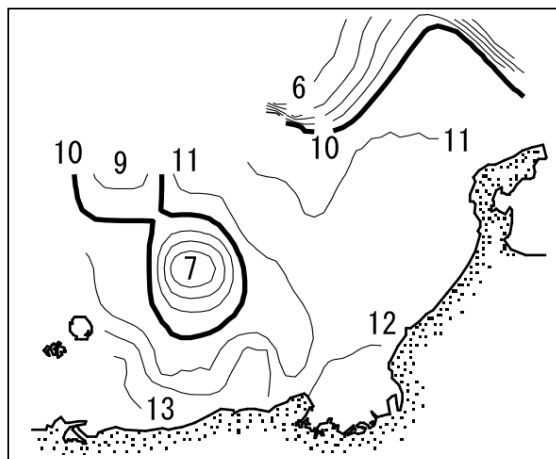


図4 2004年4月上旬の100m深水温

## 〔漁の模様〕

2005年3月の県内の総水揚量は657tで、2004年同月を191t下回った。アカガレイ(2005年;117t, 2004年;102t)、スルメイカ(15t, 1t)等は上回ったものの、アジ類(18t, 49t)、ブリ類(8t, 37t)、その他カレイ(41t, 51t)、メバル類(5t, 16t)、ヤリイカ(12t, 31t)、ホタルイカ(22t, 110t)、水ガニ(39t, 49t)等は下回った。

## 漁業種類別の状況

定置網……スルメイカ等は上回ったものの、アジ類、ブリ類[ツバス銘柄主体]等は下回り、全体で46t下回った。

底びき網……アカガレイ等は上回ったものの、ホタルイカ、水ガニ等は下回り、全体で98t下回った。

釣り・他……ブリ類[ツバス銘柄]、その他えび等は上回ったものの、ブリ類[ハマチ銘柄]、その他カレイ、メバル類、ヤリイカ等は下回り、全体で48t下回った。

## 〔県内主要漁業の3月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越廼・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位:kg)

定置網			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
カタクチイワシ	113	1,648	12,850
アジ類	17,152	48,325	30,650
サバ類	531	240	2,849
ブリ類	427	18,887	3,737
サワラ	7,702	7,317	4,575
サケ、マス	1,562	1,462	1,581
スズキ	2,432	4,377	4,577
フグ類	909	1,109	1,907
メバル類	576	845	485
スルメイカ	12,620	826	9,024
ヤリイカ	5,094	4,887	3,498
コウイカ	796	793	1,575
その他	9,650	14,389	22,120
合計	59,565	105,106	99,427

底びき網のつぎ			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
水ガニ	38,593	49,104	43,376
アカエビ	25,011	26,827	21,992
その他エビ	4,743	5,911	6,384
その他	36,727	43,695	48,951
合計	471,093	569,404	545,344

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
アジ類	362	464	3,500
サバ類	81	31	413
ブリ類	7,433	17,827	15,632
サワラ	740	308	160
マダイ	1,915	2,291	3,989
キダイ	379	841	333
アマダイ	2,106	2,614	2,206
スズキ	1,248	1,606	2,023
ヒラメ	6,296	7,188	5,366
その他カレイ	12,576	17,631	12,092
アナゴ	2,684	4,241	5,185
メバル類	4,301	13,795	10,772
スルメイカ	2,241	85	13,556
ヤリイカ	6,642	25,382	11,330
コウイカ	4,347	3,112	4,581
タコ類	15,711	14,776	18,624
その他エビ	3,010	63	3,682
その他	54,746	62,118	58,199
合計	126,818	174,374	171,643

底びき網			
魚種	2005年	2004年	95-04平均
キダイ	936	4,645	1,623
スズキ	1,781	2,366	2,113
ヒラメ	2,194	1,677	1,938
アカガレイ	117,196	101,861	104,462
その他カレイ	27,948	32,615	41,217
アナゴ	1,309	1,656	4,209
ハタハタ	160,883	156,477	72,685
キス類	1,043	694	2,007
ケンサキイカ	1,635	1,317	2,546
ヤリイカ	513	733	1,789
ホタルイカ	22,259	110,039	165,859
タコ類	9,771	7,085	7,116
ズワイガニ	18,551	22,700	17,076

総計	2005年	2004年	95-04平均
		657,476	848,883

## 〔近府県の漁模様〕

(3月下旬から4月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県 …… 定置網 …… サバ109kg、スルメイカ50kg、サワラ43kg、ウルメイワシ33kg  
 底曳網 …… ハタハタ207kg、アカガレイ86kg、ニギス69kg、ホッケ17kg  
 京都府 …… 定置網 …… スルメイカ7.7t、カタクチイワシ1.3t、スズキ0.4t、マアジ0.4t  
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ119kg、ハマチ・ツバス39kg、サバ33kg、ヤリイカ19kg  
 鳥取県 …… まき網 …… カタクチ39.2t、マアジ10.4t、マサバ0.6t、ウルメ0.1t

(松宮 由太佳)

## 平成17年度第1回日本海海況予報

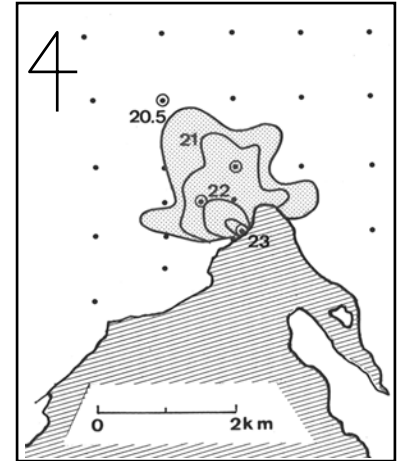
日本海区水産研究所が、2005年4月～6月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介いたします。

- 丹後半島北方にある暖水域は、徐々に北東へ移動するでしょう。
- 山陰・若狭沖冷水域は、規模は小さく離岸しており、今後も張り出しは弱いでしょう。
- 対馬暖流の表面水温は、概ね平年並み～やや高めで推移してきた。今後は平年並みで推移するでしょう。
- 対馬暖流50m深水温は、昨年10月以降かなり高めで推移してきた。今後はやや高めで推移するでしょう。

(松宮 由太佳)

∞∞∞∞∞∞ 温排水の拡散調査結果について ∞∞∞∞∞∞

昨年 11 月に敦賀市立石地先の海域で実施した原子力発電所から放出された温排水の拡散状況調査の結果は、次のとおりでした。なお、本調査結果は、2005 年 3 月 28 日に開催された福井県原子力環境安全管理協議会で報告しました。



○ 敦賀市立石海域 [2004 年 11 月 7 日 9:25~11:45]

・観測時における気象および原子力発電所の運転状況は表 1 に示すとおりであった。

・20.5℃以上の陰影域が温排水と判断され、発電所放水口から北西および北北西の方向に拡散していた(図 1)。

・表層の温排水の拡散規模は、最大到達距離は放水口から約 2.8 km、拡散面積は約 3.2 km<sup>2</sup>、厚みは最大約 2.6m で、これまでの調査結果の範囲内であった(図 1, 2)。(安田 政一)

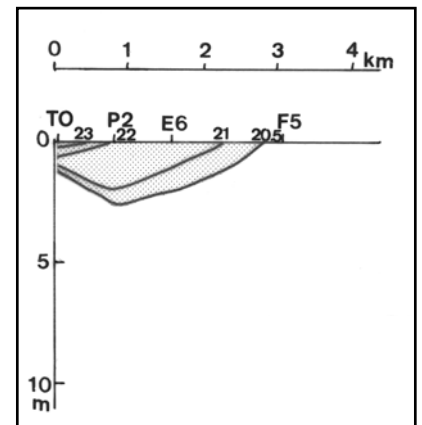


図 2 立石海域における水温断面

表 1 観測日における各種状況(日本原子力発電(株), 福井水試)

発電所	観測日	天候	風向・風速 (m/S)	時刻	電気出力 (万 kW)	排水量 (m <sup>3</sup> /S)	復水器入口 水温(℃)	復水器出口 水温(℃)
敦賀発電所	2004.11.17	晴れ	W~SE のち NW (0.0~2.7)	9:00	① 35.9	19.4	19.9	29.1 (27.7)
					② 117.6	87.1	19.9	26.8 (26.9)
				12:00	① 35.8	19.4	19.7	29.0 (27.9)
					② 117.5	87.1	19.8	26.7 (26.9)

敦賀発電所の①, ②はそれぞれ 1 号機, 2 号機, ( ) は放水口水温

~~~~~ 水産試験場職員の異動について (平成 17 年 4 月 1 日付) ~~~~~

| 転出者 [新所属]         |                | 転入者 [旧所属]         |                |
|-------------------|----------------|-------------------|----------------|
| 場 長<br>(浅海資源部長兼務) | 若林 健一 [水産課]    | 場 長<br>(浅海資源部長兼務) | 伊藤 文成 [採用]     |
| 管 理 室             | 鈴木 陽介 [議会総務課]  | 海洋資源部             | 家接 直人 [水産課]    |
| 海洋資源部             | 松崎 賢 [衛生環境研 C] | 福 井 丸             | 錦戸 孝史 [水産課 若越] |
| 福 井 丸             | 升谷 肇 [水産課 若越]  | 浅海資源部             | 畑中 宏之 [栽培センター] |
| 浅海資源部             | 倉 有理恵 [水産課]    | 〃                 | 仲野 大地 [採用]     |